

世界糖尿病デーイベント(11/14~20)



インスリンの発見者であるフレデリック・バンティング氏の誕生日にあたる、11月14日は「世界糖尿病デー」です。1991年に国際糖尿病連合（IDF）とWHOによって制定されました。

世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフとした「ブルーサークル」が用いられています。国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

今年のテーマは、『サルコペニア・フレイル』です。例年では、全国各地で一般向けの講演会や健康相談、街頭での広報活動などを各都道府県糖尿病協会や友の会が主体となり、地域単位で啓発活動を行っております。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない状況下において、安全性を最優先し開催内容の変更や中止を検討されている可能性があります。詳細につきましては、ホームページ（“世界糖尿病デーイベント”で検索）などをご参照下さい。

今年は、新型コロナウイルス感染症予防のため、外出や人との交流が長期間に及び制限されたことで、サルコペニア・フレイルが進み認知症となるケースが報告されています。85歳以上の高齢者では、4人に1人が認知症と言われている現代において、今年は『サルコペニア・フレイル』だけではなく、さらに糖尿病と深い関連性のある認知症についてお伝えたく、当院1階廊下にポスター提示する予定です。

「老化現象だから…」とあきらめるのではなく、まずは今できる事に努め、少しでも健康寿命を伸ばしたいものです。



日本糖尿病協会公式キャラクター「マールくん」